

地学協働

17

2024年2月

Hokkaido community and school collaboration

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課



バックナンバーはこちらから御覧いただけます。

1 北海道地学協働アワード2023

令和6年2月16日（金）に「北海道地学協働アワード2023」を開催しました。公立の高等学校と特別支援学校など全道からエントリーした15校のうち、予備審査を通過した8校が発表し、グランプリ、準グランプリ、特別賞が決定しました。今号では、ページを拡大して、受賞した学校をはじめ、エントリーした全ての学校を紹介します。



グランプリ

▶北海道本別高等学校



コミュニティ・スクールとコンソーシアムが機能しており、地域と学校が一体となった取組により素晴らしい成果が見られています。

本別高校は、地域と学校が連携・協働して実践されている「とかち創生学」を核として、様々な教育活動が展開されており、スクール・ミッションで掲げている「地域の未来を創っていく生徒の育成」に向けての着実な取組など、全道における地学協働の模範となる学校であるため、グランプリに選ばれました。
本別高校資料⇒



準グランプリ

▶北海道津別高等学校



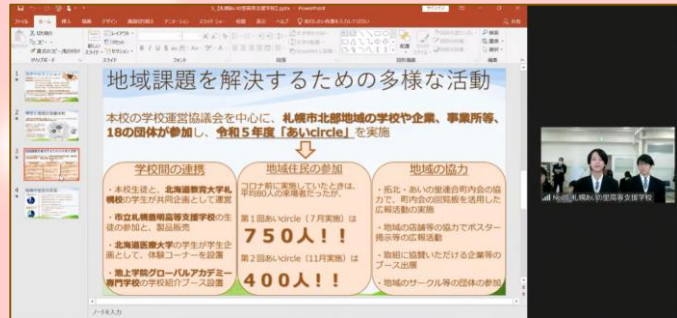
「つばつ学協働体制」を構築し、行政、教育機関、NPO法人、地域企業などと連携が図られており、地元への就職率の増加など着実に成果が現れています。また、全教職員の地学協働に対する意識の高まりが見られるとともに、生徒の主体性の高まりも感じられ、全道における地学協働の理想的な取組を実践しているため準グランプリに選ばれました。
津別高校資料⇒



◆地域の特色を活かした特徴的な活動を行っている6校が特別賞に選ばれました。

【地学連携活動賞】

▶北海道札幌あいの里高等支援学校



↑学校運営協議会を中心として様々な機関と連携を図り、18の団体が参加するなど地学協働による地域の活性化に資する活動を実践しています。

【地域連携開発賞】

▶北海道岩見沢農業高等学校



↑地域の企業の賛同を得て、コラボレーションをした地域課題を解決するための様々な活動が展開されており、SDGsの観点も取り入れられています。

【農福連携推進賞】

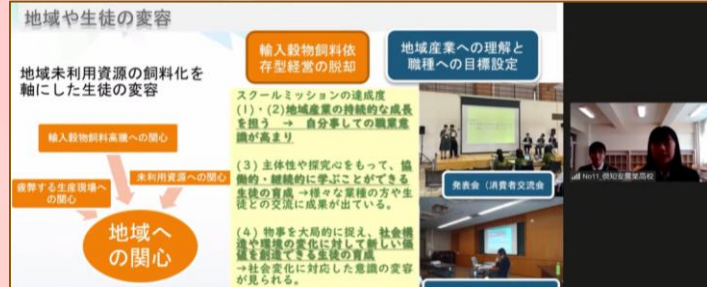
▶北海道余市紅志高等学校



↑「共生社会の実現」をテーマに余市紅志高校をハブとした地域づくりコンソーシアムと農福連携コンソーシアムの2者がうまく連携されています。

【地域産業活性賞】

▶北海道倶知安農業高等学校



↑まちの地域課題を具体的な形で学校教育に取り入れて、高校生の手によって、地域未利用資源を活用するなど、地域の活性化が図られています。

【地域連携活性賞】

▶北海道帯広南商業高等学校



↑様々な地域団体との連携・協働によって、生徒の地域貢献の意識の高まりが見られており、地域との連携が活性化しています。

【地域未来創造賞】

▶北海道帯広三条高等学校



↑地域探究を基盤とした進路実現を目指すために、「探究コンソーシアム」が整備されるなど、持続可能な地学協働体制の構築が期待されます。

◆エントリーしたどの学校も、地域の良さを活かした様々な活動を展開しています。

▶北海道幌加内高等学校

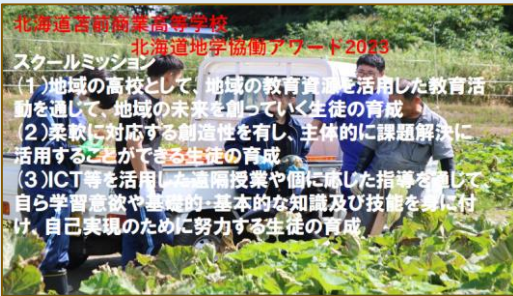


そば打ち交流

幌加内の産業として有名なそばの「そば打ち」の魅力を、地域のみなさんに伝えるために、本校でそば打ち体験を行っています。また、今年度より自治体と連携して自治体が行っている「産業祭」と共同開催を行っております。自治体と高校が連携し、町民に楽しんでもらえる機会を増やし、町民との交流も楽しんでいます。

←幌加内町の伝統文化の伝承など「高校魅力化コーディネーター」と連携しながら地域創成に寄与しています。

▶北海道苫前商業高等学校

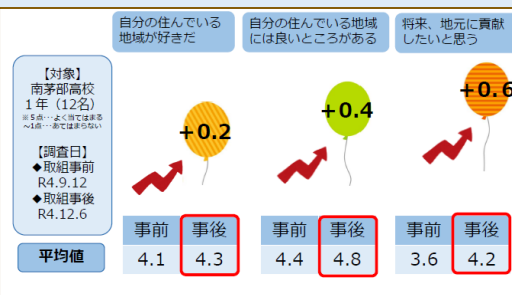


北海道苫前商業高等学校 北海道地学協働アワード2023 スクールミッション

(1)地域の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通して、地域の未来を創っていく生徒の育成
 (2)柔軟に対応する創造性を有し、主体的に課題解決に活用することができる生徒の育成
 (3)ICT等を活用し、通隔授業や個に合わせた指導を通して、自ら学習意欲や基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、自己実現のために努力する生徒の育成

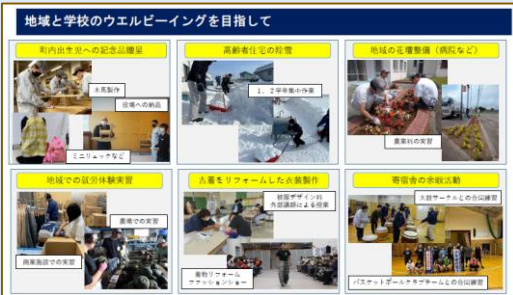
←自転車ツーリングなど地域と学校が一体となった活動に取り組んでおり、学校の魅力を発信しています。

▶北海道南茅部高等学校



←縄文をベースとした関係機関等の連携がされており、特徴的な取組が展開されています。

▶北海道美深高等養護学校

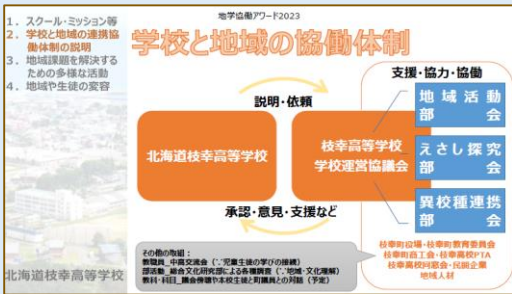


地域と学校のウェルビーイングを目指して

市内生活者への記念品贈呈
 高齢者住宅の訪問
 地域の北極熊保護(飼育など)
 地域での個別体験学習
 高齢者カフェ
 福祉施設での交流

←CSの導入とともに地学協働に向けた教職員の意識が高まっており、社会貢献活動をされているところが特徴です。

▶北海道枝幸高等学校



←地域と学校をつなぐ地域学校協働活動が展開されており、地域を支える人材育成が充実してきています。

▶北海道浦河高等学校



地域課題を解決するための多様な活動

【授業】総合的な探究の時間(地域課題をテーマにした課題研究)
 ⇒地場産品を活用した商品開発等(ふるさと納税返礼品に採用)

【課外活動】
 浦河町総合振興計画会議(第七次浦河町総合振興計画へ提言)
 類似町学校運営協議会委員(類似町コミュニティスクール等に関する提言)
 類似町ハザードマップ作成会議(防災・減災に関する提言) 他多数

←高校生ならではの視点を活かし、地域課題を解決するための様々な活動を展開しています。

▶北海道伊達高等養護学校

学校と地域の連携協働体制

○校内の体制
 ・「農業」「園芸」「窯業」「木工」「工業」「家庭総合」6つの学科が協力して、藍の関わる活動を通して全校的に地域と繋がっている。

○地域の方々と連携
 ・学校運営協議会の委員の方々を中心に、本校の当プロジェクトに関する取組やその他本校と地域の連携を肯定的に捉え、全面的にバックアップいただいている。

・当プロジェクト及び学校運営協議会担当者が中心となり、地域の飲食店・菓子舗やボランティア団体、福祉施設、市内の保育所や小中学校と、藍の栽培や藍染を通じた連携を積極的に推進している。

←地域の文化・産業の「藍」を共通テーマとした学びと地域のつながりの土台を築いています。

↓本アワードの発表や審査の様子はアーカイブで社会教育課YouTubeチャンネルで視聴できるほか、ホームページに資料を掲載しているので、ぜひ御覧ください。



地域と学校の連携推進協議会（道北会場）

令和5年11月22日(水)に道北ブロック（主管：上川教育局）において、オンラインで地域と学校の連携推進協議会を実施しました。

道北会場では、実践発表のほか、「実践発表を踏まえた取組の交流」と題して、情報交流を行い、地域の実態に応じた取組の成果や課題を共有しました。

- 1 参加者 教育委員会職員、学校教職員、保護者、地域住民、学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、社会教育関係者、道職員、市町村職員、幼稚園教職員 等

2 内容

- (1) 行政説明 北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課地学協働推進係主査 横地 康恵
 - 道の現状と課題を踏まえ、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動（地学協働）の一体的な推進の重要性や、今後の展望などを説明しました。

(2) 実践発表

旭川市立旭川中学校における取組

発表者：旭川市立旭川中学校
主幹教諭 浪岡 一氏

学校運営協議会における 生徒会本部役員や柔道部員による実践発表



旭川中学校の生徒が学校運営協議会で実践発表を行うなど、自校の特徴的な取組について、説明がありました。

当麻町における地域学校協働活動の取組

発表者：当麻町教育委員会社会教育課
生涯学習推進アドバイザー
布施 司氏
当麻町立当麻小学校
主幹教諭 田村 健太郎氏

学習活動の具体化

はばたき学習 年間指導計画									
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

学習活動の具体化に関する詳細な計画表が示されています。表には各月の学習活動の目標と内容が記載されており、一部の活動には写真が添付されています。

当麻町における「キャリア教育」や「ふるさと教育」と結びつけた「児童が地域に誇りをもつことができる教育活動」の紹介がありました。

下川町教育委員会と 北海道下川商業高等学校の連携

発表者：下川町教育委員会主事
地域学校協働コーディネーター
本間 莉恵氏



下川町では、「地域共育ミーティング」を開催し、校種間の連携を目指しています。教員、行政職員、地域住民が一緒になって、ビジョンを共有した取組の実践について発表がありました。

(3) 実践交流



各グループでは、学校と地域におけるCSの取組・課題などを交流しました。今後の方向性を確認するとともに、管内を超えた新しいつながりができました。

○●○子どもの読書活動推進コーナー○●○

学校図書館は、様々なメディアを扱い、子どもたちの知的好奇心を呼び起こし、情報を収集・選択・活用する能力を育て、学びを深める場所です。今号は、道内の次の2管内からそんな好事例を紹介します。

【根室管内】新聞を活用した教育活動の推進(別海町立野付小学校)



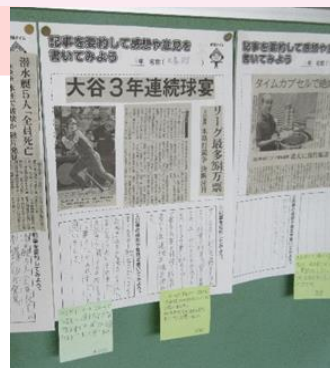
子ども一人一部の新聞を配付「別海町新聞の日」

別海町では、学びの土台となる資質・能力を育成するため、新聞を活用した教育活動を推進しています。毎日の各学校への新聞配付のほか、毎月最終月曜日を「別海町新聞の日」と定め、児童生徒一人一人に新聞を配付して各学校における新聞を活用した学びを後押ししています。

新聞を活用した学びの土台づくりの取組

野付小学校では、「朝新聞の日」を日課に位置付け、全児童が新聞を読む機会を毎週設定しています。学校図書館前には、複数の新聞を読み比べることができる新聞コーナーを設け、学校司書が新聞への興味関心が高まるようPOPやクイズなどで工夫し、新聞と出会う環境づくりをしています。

興味をもった記事を要約して自分の考えを書く活動を継続し、考えを広げたり深めたりする機会となるよう、ワークシートを廊下に掲示して交流しています。



【宗谷管内】本とふれあう機会を充実させる取組(利尻富士町立鴛泊小学校)



子ども目線で選んだ本の展示

鴛泊小学校では、学校図書館の図書の購入・廃棄を計画的に行い、授業等で活用しているほか、図書委員会の児童が、低・中・高学年からそれぞれ好きな本のアンケートを行い、まとめたポスターを作成し掲示しています。学校図書館の前の廊下にコーナーを設置し、自由に本を手にとって見られるように展示しています。

図書ボランティアサークル「りっぷの森」による学校での読み聞かせ

利尻富士町では「利尻富士町子ども読書プラン」に基づき、子どもたちの読書習慣が定着するよう読書活動を推進しています。図書ボランティアサークル「りっぷの森」が毎月鴛泊小学校を訪問し、本の読み聞かせやブックトークを行っています。ボランティアとの連携により、子どもたちの読書環境のさらなる充実につながっています。



題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE!』」

(公益社団法人 北海道観光振興機構) のフォトライブラリーから御提供いただいております。

● 掲載サイト <https://www.visit-hokkaido.jp/>